

キャンパス
リニューアル
第2回
レポート

コンセプトは 誰でも居場所があるキャンパス



上: 伝統的左官工法『洗い出し』という作業。砂利とセメントが完全に硬化する前に表面を水洗いして砂利を露出させ、自然の石が持つ普遍的な美しさを表現する。右: 高山さんがケヤキの剪定を若手に指示している。



全3回に分けてお届けしている環境整備事業特集。第2回目は、素敵なキャンパスをつくらせている工事関係者の皆さんへインタビューを行った。(文・写真 増田朱音)

今回の工事は3つの分野のスペシャリストが、基本計画の作成段階から教職員のワーキンググループと協力して作業をすすめてきた。

居心地の良さを追求



トをしている。「オムロン立石一真創業記念館」で2017年のグッドデザイン賞を受賞。「今回は計画時に50を超える大学や公園を視察しました」と山口さん(左)と加茂さん。

株式会社アーバンデザイナーズアソシエイティッド(UDA)は、都市レベルから建築、インテリア、家具、プロダクトまで様々なスケールのデザインをシームレスに考えて、設計やコンサルタン

デザイン・設計を担当したUDAの山口勝さんと加茂洋さんは、設計する際に学生の居場所を作ることこだわった。

「自分にとって大学とは、いつでもそこに居場所がある場所でした。大学とは学生が気兼ねすることなくいられる場所であるべきだと

思っています。そんな大学を作るために、一人ひとりが気持ち良いと感じられるところを沢山作ろうと考えました」と山口さん。

その想いはビクニックやバドミントンができるくらい広い芝生の広場や、座るだけではないく、昼寝やギター演奏などできる大きなベンチなどいろいろな場所に反映している。きっと気に入る場所があるはずだ。

経験が作る樹木の造形



ニーアンバサダーホテルやイクスピアリ、柏の葉公園、幕張PAなどの実績がある。「学生さんの安全第一を徹底しました」と高山さん。

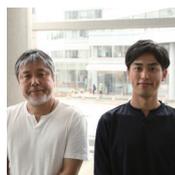
林造園土木株式会社は、明治25年からスキヤキノキ等山林用苗木の生産をはじめ、現在では千葉県を中心に造園工事を行っている。東京ディズニーリゾートのディズ

土木・植栽工事及び庭木の伐採・抜根・移植を担当した林造園土木の高山晃と

ランドスケープ設計担当の10景の石川圭さんと田中秀樹さんは、学生が主役というテーマで、大学に通う3月から7月と、9月から来年の春先の二つの時期をメインに考え、この時期に花や実をつける植物を大学の至る所に植えた。

「木ごとに形や特性が違っているの、それに合わせながら作業をします。剪定は上からではわからないので、下からこの枝は残す、この葉っぱは減らすなど指示を出しています。この指示出しがなかなか難しく、長年の経験がないとできないんですよと語った。

タンポポが似合う学園



ニックなどの実績がある。「都心の大学は緑地を舗装してしまうところが多く残念。計画時には海外の大学も視察しました」と石川さん(左)と田中さん。

株式会社10景(TEN-KEI)は、「求められる景を調理する」をコンセプトに、ランドスケープデザイン設計を行っている。ザ・リッツ・カールトン沖縄、空の森クリ

「昔の江戸川大学はタンポポが一面に咲いていたと聞きました。それに加えて、江戸川学園の象徴がカタバミとお聞きし、野の草花を大事にしているのだから感じました。それで、この大学にはゴルフ場のようにきれいな芝生よりも野草が生えたり、学生が花を摘んだりできるような芝生のほうが似合うと思ったんです。だからカントウタンポポの種まきをしてみました」と田中さん。種まきは9月以降を予定している。